

協議会ニュース 130号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2010. 12

キリ
(オリーブ 葉杯)



COP10レポート

〃

〃

あいち自然観察会レポート

知多・西三河合同研修会レポート

東三河・奥三河合同研修会レポート

会員のページ

理事会報告 (9/23)

理事会報告 (11/23)

事務局より

行事案内

尾張支部 菅我部行子……………P2

西三河支部 石川正雄……………P3

名古屋支部 佐藤裕美子……………P4

東三河支部 岩崎員郎……………P5

知多支部 降幡光宏……………P6

東三河支部 天野保幸……………P7

名古屋支部 近藤記巳子……………P8

名古屋支部 石原則義……………P9

名古屋支部 石原則義……………P10

名古屋支部 浅井聡司……………P11

……………P12

レポート CBD/COP10の成果とは

「生物多様性でセクターを越える」で辿りついたところ

COP10の個人的な成果報告です。

尾張支部 曾我部行子

万博計画から守った海上の森だったが

1994年の万博計画で改変される予定の海上の森の面積は、2000年7月には、当初の100分の1にまで縮小された。大規模な開発計画が、ここまで計画縮小されたことは快挙と呼ばずして何と呼ぼうか・・・

その後、万博開催直前には、条例が制定され、「あいち海上の森センター」が準備され、パートナーシップを組む県民の会「海上の森の会」が結成された。なのに、わたしの気持ちは一向に晴れない。

まず、万博計画の代替案として「国営瀬戸海上の森里山公園構想」が生まれる過程で、海上の森の全体像を考えるようになっていた。

さらに、環境アセスメントの「人と自然との豊かな触れ合い」項目に意見するため、調査しまとめた「海上の森環境診断マップ」報告は、自然観察会からステップアップしていく市民像を夢想することになった。

しかし、折角守った海上の森には、それらの努力を反映する余地も窓口もなかったのだ。ただ、自然観察が調査へとつながりデータが蓄積されるようにはなっていっていった。

生物多様性(JFB)フォーラムへ

2008年、万博の後に来るイベントという発想だったともいわれる生物多様性第10回締約国会議(CBD/COP10)が、名古屋で開催されることが決まって、5月CBD/COP9のボンに行く市民側から、慌しく生物多様性フォーラムが結成された。ボンからは、「CBDの裏の目的は南北問題の解決だ」というNGOの発言が伝えられた。7月には、G8洞爺湖サミットの市民側の集まりである「市民フォーラム北海道」が札幌で開催された。開発NGOと環境NGOが共に一つの船に乗った記念すべき場を目撃したことは、感動ともいえる衝撃で、「違うセクターが協働すれば磁場を生み出せるかも知れない」という灯がともった瞬間だった。

生物多様性でセクターを越える

やがてJFBでの「生物多様性でセクターを越える」プロジェクトは、名古屋NGOセンターとの連携が誕生する契機となった。

意見交換会では、ワーキング・ウーマンとの出会いから「女性と生物多様性」について考えることになり、その講演者をCBD市民ネット作業部会ジェンダー&マイノリティ部会へとつなぐことができた。また、環境省中部地方環境事務所の流域再生調査と、名古屋NGOセンターによる加盟団体への生物多様性ヒアリングをお互いにシェアできたことは、セクターを越える学びの場の実現となった。いつのまにか、自ら触媒の役目を果たしていた。

「生物多様性はひとごとです」ワークショップ

1冊の本「熱帯雨林『喪失』の真実」には、問題がどういう構造によって起っているかを示すネットワーク図が示されていた。名古屋NGOセンターは、この図を問題に当てはめ参加型ワークショップを考案した。COP10期間中に白鳥ブースで何度も繰り返し実施され手応えがあったことが報告された努力していることが点でしかない、いつまでも全体が見えず、そうなると目的さえ怪しくなる。

海上の森で起っている様はまさにそうだ。自然観察指導員はどうなのだろう？

考案者の国際理解教育担当者は言う。「人ごと＝人と人とのこと」って、基本的に「聴いて考えて伝える」こと。まだ人類はそれを磨き上げている途中である。

10月30日未明に決着した愛知ターゲット「生物多様性の価値を国と地方の開発・貧困解消の計画に組み入れる。」の採択をライブで見た。実現する一步は、「聴いて考えて伝える」ことから始まる。

今後は「海上の森環境診断マップ」で目指したことを、名古屋NGOセンターと共に、「ひとごとワークショップ」で再度挑戦したい。

レポート COP10関連事業での成果

西三河支部 石川正雄

<概要>

協議会では COP10 の 2 つの関連事業に出展。熱田会場で行われた「生物多様性交流フェア」ではブースを出展。10/17(日)～29(金)の期間中、各国の政府関係者や NGO などをターゲットに、「残したい自然の景観」をテーマにした展示を行った。

愛・地球博記念公園の「地球いきもの EXPO in モリコロパーク」にもブースを出展。10/9(土)・10(日)・16(土)・17(日)・23(土)・24(日)の 6 日間、ファミリーなどの一般者向けに、自然物を使った工作などの参加型ワークショップを行った。

(以下詳細)。同会場では 10/23(土)に近藤記巳子さんによるヒメボタルのステージ発表も行われた。

10/9(土) 担当：尾張・西三河

内容：イタドリの笛(2種類)、ドングリのコマ、ペンダントなどの工作、ドングリプール、オナモミダーツ、ドングリのボウリング

一般参加人数：約 200 人

10/10(日) 担当：尾張

内容：イタドリの笛、ドングリの人形、ネックレス・ペンダントなどの工作、ドングリプール(栗を入れて宝探し)、オナモミダーツ

一般参加人数：約 600 人

10/16(土) 担当：名古屋

内容：シュロのバツタ、竹の笛などの工作、ストーンペインティング、ドングリプール、オナモミダーツ

一般参加人数：約 400 人

10/17(日) 担当：西三河

内容：イタドリの笛、ペンダント、ドングリのコマなどの工作、ドングリの輪投げ、ドングリプール、オナモミダーツ

一般参加人数：約 400 人

10/23(土) 担当：名古屋・知多

内容：丸太のペンダント、ドングリのコマ、ブンブン、竹笛、竹とんぼ、イヌマキの手裏剣、椿の葉の草履、竹の枝の写真たてなどの工作、ドングリプール、オナモミダーツ

一般参加人数：約 300 人

10/24(日) 担当：知多

内容：ドングリのコマ、ブンブン、竹笛、竹とんぼ、イヌマキの手裏剣、椿の葉の草履、竹の枝を使った写真たてなどの工作、ドングリプール、オナモミダーツ

一般参加人数：約 400 人

愛・地球博記念公園内の新施設「地球市民交流センター」内では、地球いきもの EXPO 開催期間中、自然観察会のパネル展示を実施。あらかじめ協議会の各支部から集められたデザインを元に COP10 支援実行委員会が作成した B1 パネル 35 枚を展示した。

<総括>

地球いきもの EXPO では数多くの一般参加者があり、NHK や CBC、毎日新聞に報道されるなど、一定の成果を得ることができた。今回目的の一つとした自然観察会の認知啓蒙については、もちろんまだまだより良い方法があったと思う、反省点は尽きない。しかし地域の団体の集まりである協議会のメンバーが一つの目的に取り組む過程において、支部間の交流、相互理解、協力体制などを進めるいい機会になったことも事実である。今回私は COP10 担当としてそれらを経験として活かし、今後の協議会の活動につなげていきたいと思う。

COP10 発表・交流事業

レポート 地球いきものEXPO in モリコロパーク

名古屋支部 佐藤裕美子

11月23日(土)「地球いきものEXPO in モリコロパーク」に協議会出展のブースのサポートに行ってきました。

名古屋支部は切り株のクラフト作り、どんぐりプール、オナモミダーツにパネル展示を行いました。知多支部の方がテントに飾られたススキと、竹で作った見事なクワガタがお客さんの目を引きま

す。立ち並ぶテントの一番端のブースで目立たないかな?と思ったのですが、通りすがりの子供たちが「何だろう?」と近づいてきます。最初は恥ずかしがっていた子供たちも、竹のカップですくったりどんぐりに顔を描いたりしているうちにすっかり気に入って、プールに寝そべて動きません。「どんぐりにもいろんな種類があるんですね。」「植えると芽が出てきますか?」との声も。「子供の頃はどんぐり拾いをしましたね。」と親御さんも昔に返ったように楽しんでいました。どんぐりプールを堪能した子供たちは、自分で顔を描いたどんぐりを大切そうに持ち帰っていきました。ひんやりつるつるしたどんぐりは、触っているととても気持ちがいいのです。終了間際には、大勢の人に触られてすっかりピカピカに光っていました。

オナモミダーツはあの嫌われ者のひつつきむしを的に当ててポイントを取るゲームです。まん中の○にひつつくと1ポイントおまけがつかます。たかがオナモミ投げ、これがなかなか難しい。実は軽く思うように飛びません。3つも4つも命中させる子、何度やっても全然ダメなお母さん。何度も挑戦するのはポイント欲しさの小さい子だけではありません。3度もチャレンジしたおじいさんも。「意外とはまっちゃうのよね～」と、一時は長蛇の列ができるほどの大盛況でした。



目玉は自分でのこぎりを引くクラフト作り。初めてのこぎりを使う子供たちは力の加減が難しいようで悪戦苦闘していました。慣れた手つきであつという間に切り取ってしまうお父さん。「私も!」とチャレンジするお母さん。みんな思い思いの絵を描いて、好きな色の紐をつけると世界に一つのマイペンダントの出来上がり!長かった桜の枝も終わり頃にはすっかり小さくなっていました。

知多支部のマキの葉っぱの手裏剣やツバキのぞうり、篠笛作りや竹細工にもお客さんが大勢寄ってきていました。作り手が楽しそうに見えると自然に人が集まって来るのです。身体を使って何かを作る。という行為は大人も子供も関係なくとても楽しい。子どもにつられてお父さんお母さんが夢中になっていたのが印象的でした。自然からいただいた物から様々なクラフトができて、お手伝いの私もとても楽しかったです。パネル展示が中心の他のブースに比べ、遊び満載の愛知県自然観察指導員協議会のテントはいつも大勢の人だかりがして、一番賑わっていたように感じました。

当日、名古屋支部の相生山緑地自然観察会がフィールドの生物の保護・保全についてステージ発表を行いました。

レポート 「竹島の自然を楽しみましょう」

日時：8月22日（日）9:30～12:00

場所：蒲郡市竹島

蒲郡市の竹島は島全体が昭和5年に国指定の天然記念物となっている。磯の生物を主なテーマに八百富神社のモチノキ、タブノキ等照葉樹林、キノクスグを代表とする樹下の植物を観察対象とし下見を実施、観察会当日が暑くないことを願いつつ計画を作る。

当日は薄曇り。晴天ではなくホットする。暑さのため参加者は多くはないだろうと思っていたが、名古屋環境大学の受講生22名、企業の家族連れ10名、岐阜市の高校生2名を含む一般参加者19名の合わせて51名で、60部を用意した資料が少なくなり、会員用を回収し、参加者に配布するはめに。会員23名を含めると全員一緒では人数が多く、急遽2班に分け観察会を実施した。

竹島の橋を渡りながら海の中を覗くが、以前は繁茂していたアマモが見られたが、最近では全く見られなくなってしまった。ボラが群れで泳いでいた。

八百富神社に登る階段は急で、汗をかきつつ登る。八百富神社の社叢は、昨年台風18号の強風により、北東側のタブノキ、モチノキの大木が倒れ、対岸のホテルまで見渡すことが出来るようになっていた。木が倒れた所は明るいギャップが現れ、今後の変化が楽しみである。

カゴノキ、カクレミノ、イチョウ、カラスザンショウなどの樹木の説明をしながら神社を抜け、島の南西側の海岸に降りる。途中、竹島の森は水面に木陰を作って魚が住みやすい環境を作り出す「魚付き保安林」に指定されていることを説明した。

子供たちがお目当ての磯の観察では、指導員が適切にアドバイスしながら、石の下や岩の表面の生き物、打ち上げられた貝殻や海藻を参加者に自由に採取してもらった。岩に張り付いたタテジマイソギンチャクや

東三河支部 岩崎員郎

ミドリイソギンチャクを指でつつき、海水を吹き出す様子を見て歓声を上げる子供、竹島では最近ほとんど見られなくなったカメノテを見つけ自慢する子供など楽しい時間を過ごした。

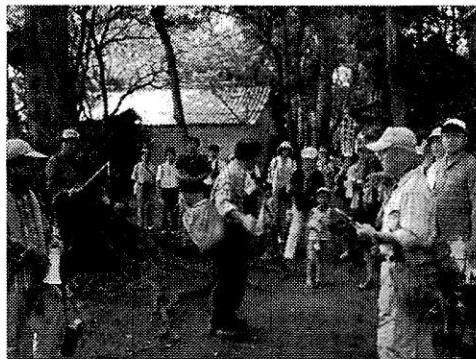
採集した生き物や貝殻を持ち寄り説明を行った。潮の干満の仕組み、潮干帯、生物の垂直分布等を説明し、個々の生き物について生息場所、生態の特徴等を説明した。また、三河湾の漁業の特徴についても説明した。

その後で実際に磯を移動しながら、説明した生き物がどのような場所に生息しているか観察し、垂直分布の理解を深めてもらった。

暑さの影響による体調不良を心配したが無事終わることが出来た。



照葉樹林の説明



磯の生物の採取

レポート 知多支部・西三河支部＝交流研修会

知多支部 降幡光宏

交流研修会は9月11日(土)と12日(日)の2日間、一泊二日で実施しました。

11日(土)11時に美浜町富具崎に集合し3つの内容を行いました。

- ①磯の生物観察と採集した生き物の試食
- ②南知多町蛭子海岸で化石観察
- ③美浜町野間で知多支部が定例で里山活動している「義朝の森」で宿泊し灯火観察と懇親会をしました。

活動の様子は知多支部のホームページをご覧ください。

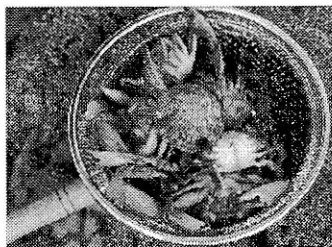
富具崎・磯の観察

富具崎は知多半島の伊勢湾側にあり、北から砂浜が続き岩浜に変わる場所で、近くに野間灯台があります。この場所は知多支部が毎年2回以上観察会を行っています。

この日の干潮は14:00でしたのでゆっくり食事の準備と並行してゆっくり磯の観察をしました。観察は当会の家族参加者や、岐阜県からみえたという一般の家族の方も参加し、合同で楽しい観察ができました。



磯の生き物調べと試食の様子



茹で上がったイシガニとマツバガイ

蛭子海岸・化石の観察

蛭子海岸は知多半島の最南端、師崎灯台に近い三河湾に面した場所で、西三河の幡豆の山並み、渥美の蔵王山、大山、湾内には佐久島、日間賀島、篠島などが眺められる景勝地です。ここでも知多支部が観察会を実施しています。

地質は1600万年前(新生代第三紀中新世)の師崎層で魚類、甲殻類、貝類などの化石が見られます。化石の採集は時間と人海戦術が大切です。今回は時間と人数が少なかったため採集したものは少なめでしたが天気もよく海浜植物の観察も出来ました。



採集した化石を持ち寄り、同定しています。

「義朝の森」で灯火観察と懇親会(宿泊)

知多支部が毎月定例で活動している「義朝の森」の名の由来は、源義朝が暗殺された最後の地であるところからです。

例年の灯火観察はひと月後の10月に行っているので集まってきた昆虫の種類も少し変わっていたようです。特に、大型のヤママユは魅力がありました。

懇親会では知多支部のプロの料理人も参加し、おいしい料理を作ってください、飲み物もいつもよりたくさんいただいたようです。

灯火観察と懇親会



レポート きららの森の秋

東三河支部 天野保幸

10月31日（日）、昨日までは台風の影響が心配された研修会でしたが台風は足早に東海上に移動し雨模様でしたが無事に開くことができました。

今日の研修会参加者は東三河支部10名、奥三河支部4名、名古屋支部9名、会員外3名の総勢26名の参加でした。

会は奥三河支部の小倉さんの案内で進み小山さんの補助もあり盛況のうちに終わることができました。

名古屋からの参加者の多くは段戸にあまり来ていなかったり、初めての方だったり、みな参加したことを喜んでいました。

研修会は小雨が降り続く中で行われ、段戸裏谷の原生林内を午前中に散策しました。原生林内は深まる秋の中でシロモジが黄色く紅葉し林内は意外に明るく感じられました。午後からは雨も上がったので、豊川の源流を訪ねました。

今年は夏が異常に暑かったためにキノコ類の発生が遅れこの時期としてはたくさんさんのキノコが観察できました。



写真1：研修会の様子

参加者全員、3分ほどに色づき始めた紅葉や多くのキノコ類に満足した研修会でした。

当日の観察結果の一部を写真と共に紹介します。



写真2：
コチャダイゴケ
直径5ミリほどの
小型キノコ



写真3：
クリタケ
大変おいしいキノコ。
毒キノコのニガクリタケと間違えられることがある。

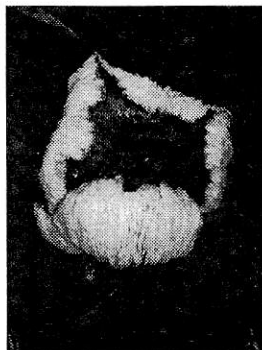


写真4：
ツキヨタケ
よく知られた発光菌類、暗闇でぼ～と光る。このキノコは傘の直径が1.5cmほどもありツキヨタケとしては大型



写真5：
ツルリンドウの果実
リンドウの仲間としては珍しい液果になる。

自然観察指導員 女性シリーズ その④



近藤 記巳子

自然観察指導員

相生山緑地自然観察会
ヒメボタルサミット in 愛知実行委員会

1. 環境に関する活動にチャレンジした 動機・きっかけ

平成元年、相生山緑地（名古屋市天白区）の存在を偶然に知りました。色とりどりの野草や野鳥たちのさえずりは「ここも名古屋？」と錯覚するほど。何度訪れても飽きない魅力を備え、その自然度の高さは驚異でした。その後、ある講座で講師から「自然観察指導員になってはどうか」と勧められました。

2. どのようにスキルアップしたか

自然観察指導員として活動開始して以来、自治体、幼稚園・保育園、小中学校、高校、大学などさまざまなところから講師依頼を受けます。時として教職員対象の講座依頼のこともあります。内容は、自然観察を中心にクラフト・ネイチャーゲーム、動植物に関すること、生物資源、生物多様性、地球温暖化など。

各所からの依頼に対応するには、情報収集と自己研鑽が欠かせません。毎日、新聞に目を通すことはもちろん、専門書の定期購読や書籍売り場で新刊本コーナーに立ち寄り更なる情報収集を心がけています。

環境省、国土交通省などが実施する研修、あるいは大学の公開講座を受講して思考の幅を広げるよう努めています。また自然に関連するネイチャーゲーム指導員やプロジェクトワイルドの資格取得をし、さまざまな場面での対応ができるよう心がけています。

3. これからチャレンジする女性への アドバイス

元来、私は人と接することが苦手でした。「自然観察」と出会ったことで、内向的な性格も徐々に変化しました。観察会活動の実績を重ねることで、積極的に行動することが可能になりました。

「身近な自然の魅力を多数の人々や子どもたちに伝えたい。一緒に守っていきたい」という思いは、私の生き方まで変えました。この変化は自分自身でも驚いています。

以上、ささやかな経験が、みなさまに少しでもお役にたてば幸いです。

.....
■愛知県チャレンジ女性応援モデル事業委託団体作成の冊子「いい人 見つけた！～環境に関する女性のチャレンジ事例集～」は、県内 49 名の女性、当会からは 4 名の自然観察指導員の活動が紹介されました。団体の了解を得て「協議会ニュース」No.128～No.130 に載録しました。

■次号より男女、自薦・他薦を問わず掲載予定です。投稿をお待ちしています。

第4回理事会

日時：9/23(木・祝) 13:30~17:00

場所：刈谷市産業振興センター303会議室

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、
近藤、石田、永田、森田、石川、吉田、
瀧崎、布目、齋竹、滝田、三田、河江

進行：大谷

記録：石原

議案1 地球いきものEXPO in モリ
コロパークブースゾーンの展示に
ついて

会場：愛・地球博記念公園大芝生広場

開催日：10/9、10、16、17、23、24の

各(土・日)10:00~16:00

出展内容と担当者：ファミリー層向け
の“自然の楽しさが伝わる”ような
展示内容の中身と担当者の確認。
各観察会ごとの展示パネルを用意す
ることを決める。

議案2 生物多様性メッセージフェスタ

会場：愛・地球博記念公園特設ステージ

開催日：10/23(土)13:30~14:00

内容：森の妖精“ヒメボタル”

近藤理事に要請。

議案3 COP10 観察会の活動報告

担当：大谷

10月の観察会までの報告書

概要だけを3行で書き、写真を添える。

議案4 愛・地球博公園・地球市民交流
センターにおけるパネル展示

担当：石川

10/9(土)~10/29(金) パネルの

進捗状況：名古屋9枚、奥三河1枚、
尾張8枚、西三河8枚、知多6枚、
協議会3枚 計35枚。B1のパネル
で作成。同じ資料でパネル作成。第
4回「人と自然の共生国際フォーラ
ム」でも飾りたい。会長の松尾理事
から提案、理事会で了承する。

議題5 生物多様性交流フェア

ブース展示 熱田会場)

担当：大谷、松尾、吉田

日程 10/17(日) 搬入・設営 9:00~

18:00 (担当者浅井氏)と18(月)か
ら29(金)までのブース担当者をきめ
た。当番の方には、ボランティア費用
として補助を考える。残したい景観
としてのパネル。発表用の原稿、英
語版の資料、配付資料、パンフレッ
トの用意。各支部で1枚は作る。解
説文も用意。10月10日までに浅井氏
まで。

議案6 フォローアップ研修会

日時：平成23年1月22、22日(土・日)

場所：海上の森センター

県の環境センターとしては、宿泊で
はなく通い。事務局としては、宿泊。
候補地として、愛知たいようの杜
古民家“ほとぎ”場所は、長久手町
長湫根嶽、会場から30分ほどのと
ころ。会長の松尾氏からの提案。テ
ーマは「土壌動物から見た生物多様
性」。理事会で了承。宿泊先は未定。

議案7 その他

◆協議会の日12月23日(祝)の内容に
ついて

この日は、午前中に名古屋支部と
尾張支部との合同例会を開催。今
のところは野鳥の観察会を企画。午後
には、犬山市のボランティアガイド
による説明。もしくは、鶴匠の話。

◆東三河と奥三河の合同研修会

場所：段戸裏谷「きららの森」

期日：10月31日(日)

集合：段戸湖湖畔の駐車場10時30分

東三河の集合：豊川市一宮支所駐車
場8時30分、乗り合わせで行く。

終了予定：午後3時頃、現地解散

持ち物：弁当・水筒・雨具・筆記用
具など。

参加希望者は10月28日までに天野
指導員まで。「10月31日会員研修会参
加希望」という件名。メールまたは
電話で連絡のこと。

◆次回の理事会

11月23日(祝) 場所について

(知多支部で会場を確保)

第5回理事会

日時：11/23(木・祝) 13:30~17:00

場所：阿久比町公民館

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、
近藤、石田、永田、森田、石川、吉田、
瀧崎、布目、齋竹、滝田、小山、三田、
河江

進行：降幡

記録：石原

報告事項

- ・地球いきものEXPO in モリコロパーク（詳細は別紙掲載）
- ・生物多様性交流フェア ブース展示
a t 熱田会場（詳細は別紙掲載）

議案1 フォローアップ研修会

テーマ：「冬の自然観察手法を学ぼう」

日時：平成23年1月22(土)9:00~16:30

23日(日)9:00~13:00

場所：海上の森・海上の森センター

定員：30名（先着順）

申し込みは12月8日（水）より受付
窓口はNACS-J 詳細は行事案内

議案2 尾張・名古屋支部合同研修会& 「協議会の日」行事

<研修会>

日時：12月23（木・祝）9:30~12:00

場所：犬山市から扶桑町の本曾川

集合：名鉄「犬山遊園」駅前9:30

テーマ：「本曾川の冬鳥」

詳細は行事案内

<協議会の日>

日時：12月23（木・祝）13:30~16:00

場所：犬山市内

集合：犬山城チケット売り場付近
13:00

内容：歴史文化環境視察

17:00~懇親会

詳細は行事案内

議案3 総会の講演会の講師

名古屋大学院環境学研究科教授

夏原由博氏 里山生態学 環境保全

講演の中身については、浅井氏が連絡
をする。

議案4 協議会たよりNo.130 掲載内容

（12月1日発行）

掲載内容と担当者を確認。12ページ。

議題5 あいちの自然観察会と

なごや環境大学の取り扱いについて

あいちの自然観察会については、なご
や環境大学と切り離して行う。

担当：大谷、石川、吉田

なごや環境大学は、4回程度行う。

担当：滝田

議題6 その他

◆総会会場の確保

3月21日（月・祝）金山駅など
交通の便利なところで行う。午前・
午後確保する。

◆来年度の活動予定の概要について 講習会、総会、研修会、協議会の日 など活動スケジュールを検討する。

◆COP10観察会のパネルについて 有効利用を検討する。

◆COP10観察会のまとめ

まだ報告をだしていない方は、至急
大谷氏まで出すこと。

◆各支部の総会の日程について

尾張支部 1月10日（月・祝）

名古屋支部 2月27日（日）

知多支部 2月13日（日）

西三河支部 2月5日（土）

東三河支部 2月 日

奥三河支部 1月23日（日）

■事務局からのお知らせ

■COP10 開催

各会場でブース出展、ステージ発表

本年は、COP10(地球いきもの会議)が名古屋で開催され、歴史に残る1年でした。私たち協議会も生物多様性条約締約国支援実行委員会の一員として、また、CBD市民ネット中部所属の1団体として、COP10 自然観察会の企画運営、モリコロパークでのブース出展、ステージ発表、熱田会場でのブース展示など、めまぐるしい活動を展開しました。モリコロパークでは、延べ51名の、熱田会場では、延べ61名の会員皆様にご協力を受け、無事成功に終わることができました。事務局としては、無事に終了したことで安堵しております。

COP10 開催中に、豊田市でクマ2頭が射殺され、開催後も瀬戸でクマ1頭が射殺されました。クマには何の罪もないのに人間の都合で殺されました。私にとって心痛な思いに駆られ、いたたまれませんでした。また、高山植物が、増えすぎたシカの食害にあい、たいへんなことになっていることを知り、愕然としました。

COP10 が終わっても一息つくわけにはまいりません。ポスト COP10 を見据えて、生物多様性の活動をますます普及させて行かねばなりません。

それにしても、会員の皆さんの元気さには驚いています。11/28(日)には尾張支部が春日井少年の家で“芋煮会”、12/5(日)には東三河支部が緑ヶ浜緑地(田原市)で“芋煮会”、各支部で懇親会が企画されています。やはり、楽しんで活動をしなれば、長続きはしないものだと感じさせられます。事務局は、会員の皆さんからエネルギーをいただいて元気づけられます。

■「協議会の日」開催

12/23(木・祝) 於 犬山市

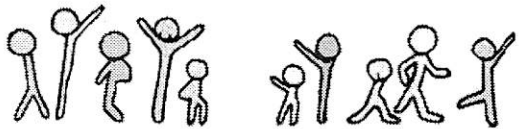
協議会では、12/23(木・祝)には、犬山市で「協議会の日」が企画され、会員相互の交流が図られます。おいしい地ビールがいただけるのとこと楽しみにしています。もちろん、本業である“指導員研修会”も行われます。みなさん、予定表の中に書き込んでおいてください。よろしく願いいたします。

■新入会員紹介

下記の方が新たに協議会に加入されました。今後の活躍に期待します。

斎藤保彦(知多)
新家秀典(名古屋)
高見智香(名古屋)
平松俊彦(知多)
森功一(尾張)
山本辰巳(知多)
脇田裕子(名古屋)

敬称略



■フォローアップ研修

1/22(土)・23(日) 海上の森センター

1/22(土)・23(日)は、海上の森センターで“フォローアップ研修会”を実施いたします。定員がありますので、お早めに申し込んでください。夜は、懇親会もいたします。

☆詳細は p12 の行事欄を参照ください。

■愛知県自然観察指導員連絡協議会

22年度総会 3/21(祝・月)

平成23年3/21(祝・月)は、協議会の総会です。今年のゲストは、名古屋大学院環境科学研究科の夏原由博教授を予定しています。里山生態学を専攻しており、環境保全に造詣が深いと伺っています。いろいろと興味深いお話しが聞けそうで、楽しみにしています。

☆詳細は p12 の行事欄を参照ください。

■支部総会の予定

平成23年1月～2月にかけて、各支部総会が以下の通り予定されています。

尾張支部(1/10)
奥三河支部(1/23)
西三河支部(2/5)
知多支部(2/13)
名古屋支部(2/27)
東三河支部(2月中旬予定)

☆詳細は各支部に問合せください。

<<< 行事案内 >>>

■研修会・「木曽川の冬鳥」

日時 12月23日(木・祝) 9:30~12:00

場所 大山市から扶桑町の木曽川

集合 9:30に名鉄「大山遊園」駅前

テーマ 「木曽川の冬鳥」

講師 佐々木指導員(尾張支部会員)

内容 大山遊園駅から扶桑緑地まで

木曽川沿いを片道約4kmを歩いて

ミコアイサ、カワアイサ、

カンムリカイツブリなどの冬鳥の観察を行います。

防寒対策と歩きやすい服装で参加ください。

= 平成22年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会 総会 =

日時: 平成23年3月21日(祝・月)

場所: 交通の便の良い会場で、午前・午後とも確保の予定。

講演: 名古屋大学院環境学研究科教授

夏原由博氏(里山生態学)

詳細は次号の「協議会ニュース」3月号でお知らせします。

☆年に一度の総会です。万障繰り合わせて出席ください。

■協議会の日: 歴史文化環境観察と懇親会

日時 12月23日(木・祝) 13:30(研修会&昼食後) ~16:00

場所 大山市内(集合: 大山城入口)

内容 歴史文化環境観察と懇親会

◎観察: 観光ボランティアの案内で大山城と大山の町並み見学(16:00頃まで) 大山城登降料 500円

◎懇親会: 時間 17:00~18:30

会場: 大山ローレライ麦酒館: 大山市大字羽黒字成毎郡70 (TEL0568-67-6767) 名鉄小牧線羽黒駅から徒歩15分

費用 4500円程度

申込 尾張支部: 大谷(携帯: 090-9263-9768 メール: kokokey@nifty.com)

■フォローアップ研修 → 詳細は「自然保護」No518 11・12月号p23を参照ください。

日時: 1月22日(土) 9時~16時30分、23日(日) 9時~13時

場所: 海上の森センター(愛知県瀬戸市)

テーマ: 「冬の自然観察手法を学ぼう」

内容: 冬の公園などで見られる身近な素材を使って、冬の自然観察手法を学ぶと共にスキルアップを図る。

参加費: 5,000円(宿泊希望者は別途6,500円が必要となります。)

申込先: (財)日本自然保護協会 普及部 福田博一さん TEL: 03-3553-4105 FAX: 03-3553-0139

編集部から

■編集スタッフの酒井勇治さんが、都合により編集担当を降板されました。協力をありがとうございました。

■本年の表紙イラストを担当して下さった岡田慶範さん(西三河)、ありがとうございました。次年度担当していただく方を募集しています。また、編集・レイアウトなどが可能な方も、是非編集部まで一報ください。

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子

永田 孝 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖2-6-17

桜本町CH101 近藤 記巳子

TEL / FAX (052)822-7460

■愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会) 事務局(当面)

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2 Tel (0568) 32-5069 松尾 初

■Web Page: <http://aichi.net/>

■郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)